

事案名	洲本市の事案（兵庫県 28 - 2）
フォローアップ調査資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・証言（所属不明）〔1〕</li> <li>・「『旧軍毒ガス弾等の全国調査』のフォローアップ調査について（回答）」平成15年10月6日〔2〕</li> </ul>
追加資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『日本築城史 近代の沿岸築城と要塞』〔A1〕</li> <li>・『神戸新聞』平成15年11月28日夕刊〔A2〕</li> <li>・『平成16年度国内における旧軍毒ガス弾等に係る情報収集及び取りまとめ業務報告書』〔A3〕</li> <li>・「List of Munitions（軍需品一覧表）兵庫地区」（由良要塞銃砲聯隊 昭和20年11月3日）〔A4〕</li> <li>・『平成16年度B / C事案における第2次地下水調査業務 報告書』〔A5〕</li> </ul>
平成15年度フォローアップ調査報告書の要約	<p>終戦時、兵庫県洲本市内の由良要塞に毒ガス弾等が保有されており、進駐軍が処理することになったとの話を同僚から聞いたことがあるとの証言がある。</p> <p><b>廃棄・遺棄情報</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・元進駐軍通訳の証言によれば、「昭和21年9月～11月頃に、進駐軍の毒ガス処理班の通訳をしていた同僚から、洲本由良砲台の反対側の山の横穴に旧軍の毒ガス（ホスゲン、イペリット等）があるが、危険なので穴をブルドーザーで埋めることになったという話を、当時の同僚から聞いた」と記載されている〔1〕。</li> <li>・証言内容を確認するため、旧軍施設に係る地元住民等に事情を聴取したところ、由良要塞は昭和20年9月頃に米軍が進駐し、進駐軍の命令により、地元住民が多数動員され、同要塞に保管されていた弾薬類の搬出や建物の解体等が実施されたが毒ガス弾等はなかった。その後、旧軍の各施設は徹底的に爆破処理された。同作業は昭和20年末頃まで行われたようだと記載されている〔2〕。</li> </ul> <p><b>現在の状況</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・由良要塞跡は、現在、住宅、公的施設、宿泊施設、公園、山林等になっている。由良地区の地下水調査結果では、ヒ素濃度は環境基準以下である〔2〕。</li> </ul>

<p>新たな情報</p>	<p>その他情報</p> <p>( 1 ) 由良要塞について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・紀淡海峡に面した由良要塞は明治 2 9 年に設置され〔 A 1 〕、終戦後、解体・放置された〔 A 2 〕。</li> <li>・由良要塞は広範囲に点在し、由良要塞は現在、宿泊施設や海上自衛隊施設、生石(おいし)砲台跡の一部が公園として利用されている〔 A 3 〕。なお、生石山第一砲台は、終戦後米軍に爆破された〔 A 1 〕。</li> <li>・毒ガス弾との関連は不明だが、終戦時、洲本市由良地区から約 1 k m 南の地点に由良要塞の小佐毘弾薬本庫があり、土造平屋建瓦葺の火薬庫と、洞窟式の火薬庫(清涼火薬庫)が存在していた〔 A 4 〕。</li> <li>・毒ガス弾との関連は不明だが、終戦時、由良要塞の生石砲台には土窟式火薬本庫が存在していたと記載されている〔 A 4 〕。</li> <li>・小佐毘弾薬本庫跡とその周辺では、旧陸軍が管理していたことを示す石碑・門・堀等を確認することができた〔 A 3 〕。</li> <li>・証言者が同僚から伝え聞いたとされる毒ガス弾の埋設情報に係る山の名称は、洲本市による調査の結果確認することができなかった。また、そのような名称で呼ばれている山も確認されていない〔 A 3 〕。</li> </ul> <p>( 2 ) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境省が実施した地下水調査の結果、毒ガス関連成分は検出されなかった〔 A 5 〕。</li> </ul>
--------------	---